

令和3年度探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業の取組

本校独自版

9月16日

校内研修会（第5学年 総合的な学習の時間）

武庫川女子大学准教授藤本勇二先生をオンラインでつながせていただいて、校内研修会を行いました。本校では、2回目の校内授業研修会でした。1回目の授業研をふまえ、指導案も『探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業』を受けて作成し、実施しました。

藤本先生からも学習指導案を丁寧に見ていただいた上で指導助言をしてくださっているなど話をうかがいながら感じました。藤原広貴先生もドキドキ不安っぱいの授業だったようですが、ICTを活用してこれまで取り組んできたことの伝わるものだったと思います。



<研究協議より>

参考になる点	改善する点
<ul style="list-style-type: none">○ICTを活用し調べたことをまとめ、「疑問」→「調べて分かったこと」→「さらに調べること」の流れがはっきりとしていた。○声かけ、価値づけ 「次につながる質問だね。」 やさしい声かけ・話す雰囲気○よく調べており、どうすれば暮らしやすさにつながるのかもがんばって考えていた。	<ul style="list-style-type: none">○児童が気付くことが出来るように、学級文庫を充実させたり視点を与えたりするとよい。○一指示一行動で活動させていく。○単元で知っておく言葉などは、押さえておく。

<藤本先生の指導講話より>

🔗総合的な学習の時間について

★総合的な学習の時間とは子供たちが気付く時間である。（今の子供たちが大きくなる時には、私たちが想像しえない将来が待っている。私たちが子供たちにこうしておけば将来役に立つ、将来にとってよいということは、不可能）

★総合的な学習の時間に陥りがちな学習は調べる→発表の形になりがち

（間口が広がるほどなりがちである。どんな活動をしていくのか考える必要がある。）現状をなぞっているだけではいけない。（ただの調べ学習）

もっとカジュアルな交流をしていく。フォーマルな発表は、別教科ですればいい。

その際に、JamboardなどICTの効果的な活用も考える。

★教室環境を子供たちが作っていけるように

★低学年・幼稚園・保育所・地域等いろんな人との交流する機会はある。

★協働して、目標に向かうのは特活である。総合的な学習は、失敗をしながら自分の中にないものを見つけていくもの。

★単元のキーワード（本質的な問い）は月の終わりや学期の終わりに繰り返し問う

★本物の活動にしてい

★学習（単元）をとおして子供たちは何を獲得するのか考えることが必要。

🔗校内研修については子供の姿で語る集団をめざし、次回から見取りの協議を行う。